

管理職研修会の管理・運営における教育委員会の取り組みについて

～地域包括ケアシステムの構築に向けて～

大崎 充子¹⁾ 藤田 真介²⁾ 浅倉 靖志²⁾ 美原 盤³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 事務部

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション科

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]当財団は多職種で構成する各種の委員会活動を行っており、教育委員会は教育計画・評価、学術業績、新人研修、研究発表会、管理職研修会等の管理・運営を担っている。今回、平成 29 年度の管理職研修会において組織横断的、継続的な取り組みを実施したので報告する。

[取り組み]医療従事者は常に技術・資質の向上が求められ、各地で様々な研修が開催されている。かつては講義形式が大半を占めていたが、ここ数年ディスカッションを伴う研修が増加するなど、いかに体験学習として実際の業務に結びつけるかが課題となっている。当財団の管理職研修会は、平成 16 年開始当初から講義受講後、グループワーク、発表というスタイルで行ってきた。しかしフォローアップまで至らず、実践については個々のスタッフに任せていたことは否めない。そこで今回、テーマを「地域包括ケアシステムの構築に向けて」と設定し、グループ毎に企画を立案し実践する段階まで含む研修会とした。

まずグループ編成においては、事務部門や診療協力部など、直接患者に関わることが少ない職種も配置することで組織横断的チームとなるように配慮した。また、毎月グループ毎にフォローアップシートの提出を義務づけ、教育委員会がその進捗状況を確認し、確実に実践されるよう管理した。フォローアップについては、企画によって、アウトプットに至るまでのプロセスを評価、もしくは実践の量・質を評価するアウトカムを評価できるよう評価指標を定め、数値で表す方式とした。

[結果]管理職研修会において「地域包括ケアシステムの構築」というテーマで取り組んだことで、多職種が関わる企画の立案、実践につながり、かつチーム医療が推進された。教育委員会は研修会を開催するだけでなく、実践に移すフォローアップの段階まで重点的にサポートすることで、グループ自体がコルブの経験学習における 4 つのステップを踏み成長を遂げたと考える。